

L
o
v
e
l
y

あいのかぜ

富山市女性情報交流誌

VOL. **1**
1995・秋号

W
i
n
d

家族、結婚、育児、仕事。

いろんなこと、私たちが考えてみませんか。



SPECIAL INTERVIEW

“仕事で自分を発見!”

頑張っている富山市内の
魅力的な女性3人をPICK UP!
彼女たちの3人3様の生き方、見てください。

「出会いのペンで」

'67年生まれ 月刊誌「まいけ」編集スタッフ

富川由佳



とみかわさんと「まいけ」との出会い
は'90年の創刊号で、「女性ばかりで
作っているのが新鮮」と読み始めたことか
らである。結婚・出産・育児と環境の変化の
なかで、「社会人としての活動のきっかけを
探していた時期だった」と富川さんは言う。
その後「まいけ」の編集長に手紙を出した
ことがきっかけで週2、3回編集作業を手伝
うようになり、仕事が始まったそうである。

現在は特集記事を担当する重要なスタッ
フであるが「いろいろな出会いを活字にす
る事の難しさで、毎日が勉強です」と謙遜
する。「まいけ」では結婚や子育て等の理
由で消極的になりがちな女性に門戸を広
げ、その人にあつた働き方ができる。又協
力スタッフなどのネットワークを作り上げ
編集に役立てている。「まいけ」の柔軟性の
あるシステムと、家族の理解と協力がある
からこそ、私もこうして仕事を続けること
ができる。女性にとつて働ける環境作りと
いうのは難しいと思うが、社会全般で取り
組んでほしい問題」と語った。

取材等を通じて、たくさんのお会いがあ
る。その出会いから福祉やボランティア活
動についての関心も深い。「車イスで生活す
る男子中学生のお母さんとの出会いがきっ
かけだった。けつして他人事ではなく、一
人ひとりが自分に何ができるかを考え、行
動していくことが必要だと思う。お互いに
尊重しあい、共に生きていける社会を築い
ていくことができれば」と熱心に話して
くれた。

最後にこれからの女性へのアドバイスと
して「私は幸運にも「まいけ」というきっ
かけをつかむことができたけれど、きっか
けというのは、実はたくさんあるものだ
と思う。大切なのは、自分からつかまえるか
どうかだから、先入観や固定概念にこだわ
らず、自然体で社会に参加できる方法を探
してほしい」と結んでくれた。

「発車オーライ」

'40年生まれ 富山地方鉄道バス運転手

前 弥栄子



夢への第一歩は、 家族の理解とほんの少しの勇気から

や

まぎさんが現れた瞬間、パツと店内が華やいだ。ショートヘアがよく似合うお洒落な女性である。「女性が働くのは大変な事だけど、ただやるかやらないかだと思ふ」ときっぱり話す山崎さん。酒饅頭で有名な創業以来230余年続く和菓子店「竹林堂本舗」を御主人喜雄さんと共に経営している。

「代々養子を取ることが無かった老舗に嫁いで、生んだ子は娘ばかり3人。肩身が狭くて」。子育て、雑事をして仕事と、嫁いだ頃は睡眠時間4時間の日々が続いた。だが手は抜かず、むしろ新しい事に果敢に挑戦していった。やがてそれは自分の店に止まらず、街全体のことへと広がっていった。「お客を街に呼び戻したい」と商店街の奥さん方とさんぼーろママSUNの会を結成リーダーとなったのは4年前である。「そりややせたわ。でも街として活性化しなくて人を惹き付けようとイベントで丸まげ結って商家の女将に扮装したこともあった(笑)」。老舗と街に新風を吹き込みたい山崎さんと周囲の意見が合わないことも当然あった。しかし家族の協力もあり、「お客様を喜ばせたい一心で」やり遂げたのである。「何かできる子に」と育てた娘たちは今、各々の意志で富山で菓子に携わる道を選んだ。長女ゆかりさん(32)は10年前に山崎さんと始めた洋風の喫茶店を次女さつきさん(30)と二人で切り盛りしている。三女祥子さん

(25)はこの喫茶店で菓子教室を主宰、TVコンテスト番組でも優秀な成績を取っている。「今は娘がいてくれてよかったですと本当に心強い」。嬉しそうな視線の先に甲斐甲斐しく店内で接客している娘さんたちの姿があった。山崎さんは将来「さんぼーろママSUNの会」を「友の会」に発展させたいと考えている。「更にお客様が喜ぶ企画を」とにか街にきて欲しい。シャボンが趣味という山崎さんの言葉から、力強く美しい夢の響が聞こえてきた。

「お菓子・街・夢」

39年生まれ 富山市中央通り
さんぼーろママSUNの会代表

山崎 佐和子



ま

えさんは「母ちゃん」の愛称で母に慕われている女性。バス運転手である。西部営業所乗務員印名のうち女性は何人とも8名、男性だけの前さんだが、小さいころはとても難病で、自転車に乗るのも恐かったという。バス運転手になることは、決して容易ではなかったが、「ああ、私も大きな夢に乗りたい、動かしみたい」という夢や好奇心は、日毎に大きくなっていった。そして娘さんの「お母さん、勇気あるんだね」の言葉にも励まされ、貯蓄にしてついに前さんを、現実へと導いたのである。80年に入社し、早7年、これまで全振り進んで来た。嬉しかった事は、お客さんに「頑張つてね」と暖かい言葉をかけられたり、お年寄りや体の不自由な方には、女の運転手さんでよかったわ」と言われたりしたことです。でも富山のドライブは、はげっかちなのでしようか。慣習無視が多いですわ」と嘆く。車を運転する一人ひとりが、もっと心にゆとりを持ちたいものだ。母として二人の子供を立派に育て上げた前さんは、腕がツツやツツやしていても若く見える。友達と旅行したり、おしゃべりをして大串で笑う事が、ストレス発散に役立つ。若さの秘訣になっているようだ。「女性が働く事はとても大変なことです。家族の協力がなければ、なかなかできません。でも、そのことを当たり前だと思わずに、ありがとうの気持ちを持ちたいです。頑張ってもらいたいです」と語る前さん。生まれ変わった。この仕事につきたいという。四季折々の富山の自然の豊かさを肌で感じ、車窓から見える景色に毎日感動するというのが好き。いつも、新鮮な気持ちで働く事を続ける前さんの仕事への熱意は、ここに凝縮されているような気がする。かえれば、母ちゃん!

M E S S A G E

富山市の三人の女性のお話を伺った「あいかぜ」創刊号はいかがだったでしょうか。この「あいかぜ」は「豊かな男女共生社会の実現に向けて、市民一人ひとりが女性問題に関する正しい理解と認識を深めることを目的に発行する」という趣旨のもと富山市民である私たち編集委員3人がつくりました。

今、社会や経済は大きく変化しています。この変化の中、私たちは住みやすい社会に向けての大きなうねりの中にあるように思えます。特に社会の最小共同体である「家族」は大きく影響を受けています。男は外、女は内といった家族内の男女の性別役割がはつきりしていた以前とは違って現在は個人の意識も高くなり、女性も「男性と同じように」と思い始めています。また男性も、家族への責任を一人で負うのではなく互いに分担したいというように、男女が自分を大切に生きることを望むようになっていきます。

私たちのライフスタイルも、結婚をし、子供を育て、老後は一緒にといった見通しを立てにくくなっています。若い男女の中には自分の意志で晩婚、非婚、子供を持たない結婚等を選び生活している人も多くなっています。以前には考えられなかった、老人だけの世帯や種々の事情により離れて生活している家庭など、家族の姿も多様化になっていきます。

少子化・高齢化が進めば、女性は更に労働力として仕事をしていくでしょう。地域共同体、企業、行政がもっと男性・女性の枠にとらわれない発想をしていかなければ、多くのしわ寄せを女性が背負わなくては社会が成り立たない状況になりかねません。私たち編集委員は、日ごろ何げなく感じている事に光をあて、つたないながらも、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

これからお付き合いの程、よろしくお願ひ致します。

S T A F F



山形から来たんだけど... 白鷺ふえちゃって... ねえ、異例な食べたけある?

70年のお座
小原あゆみ

きやや! あっ
あいの風も入って
きて涼しいし〜
はよ取村に
行かんまけ!
それ

富山の
おいしいもん食べて
いろんな人に
出会えば
すかあっちゃ!

53年やき座
加藤 町子

62年かた座
水原みゆき

T H A N K S !

あ、な、なんとと編集数53歳うたぐきんのご記事ありがとうございました。趣考の結果、城川原の花房美穂さんの「あいかぜ」に決定!おめでとございます。これは「わたしたち家話」の風、「あいの風」富山共で北東の涼しい風のこよし、「愛の風」という意味、他、誌巻の中がいろいろかこ紹介します。「あなた」「山田実美さん・水穂」「この世にはあんたとおたししかおらんが」「今日編(こんにち)」(村杉基さん、村杉マユさん・西中野町「藤花」高橋英子さん・高橋俊夫さん・水穂「WON NOW」二葉山藤世さん・高岡山「WON NOW」の時「まいどはや」「竹俣りえさん・西田地方町「チ・モノ」三津百合さん・梅沢町「女性の難字の意「エス」」「LIFE FEMME」「鈴木玲子さん・西岡十穂町「Tomie」「Jane」(岡藤明美さん・吉野「響流」(原さちこさん・堤町「ニューエース」(荒井美智子さん・高岡山「テ・ムーン」(柳行美さん・小文節市「たおやか」(石上正純さん・大町)」などでした。

富山市女性情報交流誌
「あいかぜ」編集スタッフ
高橋・カト・藤原 富山編集
企画・発行 富山市世帯市役所若年女性課
〒930 富山市新町1-10
TEL 0764-416200
TEL 0764-416201
FAX 0764-416202
「あいかぜ」編集スタッフ(富山) 1
〒930 富山月・20日発行